

平成30年 10月 1日

総合情報基盤センター
 所長 下川 俊彦 殿

2019年度 総合情報基盤センター研究開発申請書

私は、2019年度総合情報基盤センター研究開発における研究開発者として、下記のとおり申請いたします。

記

研究開発代表者		
氏 名	所 属	職 名
金川 一夫 印	商学部経営・流通学科	教授
内線番号/携帯番号	電子メールアドレス	
5314	kanekawa@ip.kyusan-u.ac.jp	

研究開発分担者または研究開発協力者				
No.	氏 名	所 属	職名または学籍番号	研究開発者区分 (○をつけて下さい。)
1				分担者・協力者
2				分担者・協力者
3				分担者・協力者
4				分担者・協力者
5				分担者・協力者

研究開発期間 (実際の研究開発期間 をご記入ください。)	平成31年4月1日 ～ 平成32年3月31日			
研究開発課題名	財務分析演習を支援するためのムードル「e-ラーニングシステム」作成			
使用計算機名 (○をつけて下さい。)	Windows ^{サーハ} ・Linux ^{サーハ} ・○Windows ^ハ パソコン・Linux ^ハ パソコン・Macintosh ^ハ パソコン その他()			
研究開発経費	申請予算総額	申請予算総額の内訳		
		消耗品費	一般旅費	諸会費
	180 千円	100千円	70千円	10千円
		購読費	通信費	諸手数料
	千円	千円	千円	

研究開発課題の説明

本研究で作成しようとするシステムは、以下に述べる財務分析演習の授業で3つのデータベース(DB)を利用する手順とそれを利用して分析する方法をPCとスマートホンの画面上に表示し、ボタン操作でデータベースを検索可能にする。そして、企業の経営成績を分析した結果をPCまたはスマートホンの画面から入力し、提出可能にする。このようにPCまたはスマートホンでDBを検索しレポートを作成することを目的としている。

「財務データベースを利用した財務分析演習の提案」九州産業大学総合情報基盤センター『COMMON』37巻(pp. 26-41)で述べたように、財務DBを利用した財務分析演習の授業では、九州産業大学図書館が契約しているDBである、日経バリューサーチ(以下、VSと略す)、日経レコン21(以下、TCと略す)及びeolを利用して企業の財務データを検索し、分析して、経営成績を比較する。

授業は①九州の上場企業の特徴、②分析対象企業の選択、③比較対象企業の選択、④比較グラフの作成、⑤企業の経営成績の比較、⑥報告書の作成という順に行われる。

(1)九州の上場企業の特徴

- ①九州産業大学図書館のHPから「データベース」を選択する。
- ②DBの中から「経済・経営・法令」の区分にある国内「日経Value Search」を選択する。
- ③VSの画面で、「日経Value Searchにログイン」をクリックする。

(2)分析対象企業の選択

検索した九州の上場企業から分析対象企業を選択し、VSから財務データを取得する。

(3)比較対象企業の選択

- ①九州産業大学図書館HPから「データベース」を選択する。
- ②DBの中から、「全分野」の区分にある国内「日経テレコン21(日本経済新聞記事検索)」を選択する。
- ③TCで分析対象企業と同業種、同規模の企業を検索する。検索した企業から比較対象企業を選択し、VSから財務データを取得する。

(4)比較グラフの作成

- ①VSから取得した分析対象企業と比較対象企業の財務データから財務指標をグラフにする。
- ②両社の財務指標を比較して差異を明確にする。
- ③両社の財務データからBS、PLを作成して、差異の原因を調べる。

(5)企業の経営成績の比較

- ①九州産業大学図書館のHPから「データベース」を選択する。
- ②DBの中から、「経済・経営・法令」の区分にある国内「eol」を選択する。
- ③九州産業大学産業経営研究所のホームページの「MENU」画面で、「産業経営研究所概要」をクリックする。
- ④産業経営研究所概要の画面で、下にスクロールして「eol企業情報データベース(有価証券報告書)」をクリックする。
- ⑤eolの画面で「Automatic login」をクリックする。
- ⑥分析対象企業と比較対象企業の有価証券報告書を取得する。
- ⑦財務指標の差異の原因を、有価証券報告書の情報をもとに調べる。

(6)報告書の作成

以上のように、VS、TC、eolの3つのデータベースを利用する。最終的に、これまでの分析、調査及び議論の成果をもとに報告書を作成する。

本研究で作成するシステムは、実際の授業で使用することを想定して、シラバスに示される30回の授業回数に対応したデータベースの利用手順と演習課題の解決のためのヒントを示すことを考えている。

研究開発課題の意義と予測される結果

この財務データベースを利用した財務分析演習を支援するためのHPを作成するための意義は、2020年度から開講される「九州企業経営分析演習」の科目で利用することにある。

この科目は商学部経営・流通学科の専門科目、実力育成科目、九州ビジネス科目という区分に設けられており、商学部設立の看板科目のうちの1つになっている。他に、九州企業研究、九州とマーケティングなどの科目がある。第3年次・第4年次対象4単位通年科目である。まだ開講されていないので希望する人数は未定であるが、中規模人数（50人程度）を想定している。この中規模人数の授業を支援するために財務分析演習支援ムードル「e-ラーニングシステム」を作成するのである。

予測される結果として、九州における企業の経営状態について分析に対して中規模人数の学生の理解を高めることが期待される。これについても、Office365のFormsを利用してアンケート行い、作成したシステムの利用状況の分析を行いたい。